

## 指定管理者評価シート

### 一 管理運営の状況

1	施設名	ウインディ広瀬川
2	指定管理者	社会福祉法人 緑仙会
3	指定期間	平成29年4月1日～平成34年3月31日
4	施設の利用状況	<p>《利用者数》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年度 5,254人 (前年度比 96.87%)</li> <li>・平成28年度 5,424人 (前年度比 93.94%)</li> <li>・平成27年度 5,774人 (前年度比 106.85%)</li> </ul> <p>《事業》</p> <p>日常生活を営むことに支障のある精神障害者が入所し、自活生活に必要な技術を習得するために指導や援助を行う。</p>
5	収支の状況	<p>《費用》</p> <p style="text-align: right;">( )は前年度決算額</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指定管理者に支払った費用 76,764千円 (66,261千円)</li> <li>・ その他市が負担した費用 1,563千円 (1,402千円)</li> </ul> <p>《収入》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使用料収入 57,744千円 (57,896千円)</li> <li>【再掲：利用者負担額 1千円 ( 92千円)】</li> <li>・ その他収入 千円 ( 千円)</li> </ul>
6	利用者の声	<p>《実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年1月、指定管理者の協力のもと障害者支援課で利用者アンケートを実施し、14人/15人中(93.3%)の回答を得た。施設の利用に関し、満足または大変満足が77.1%であり、普通が18.6%、不満が4.3%という回答であった。</li> </ul>

### 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	施設の設定目的に基づいた管理運営が適切になされている。 自立訓練(生活訓練)・宿泊型自立訓練のサービス提供に意欲的に取り組んでいる。 また、退所した利用者には一定期間中に訪問支援を行うなど、アフターフォローも実施している。	S
II	施設の運営管理体制	必要数の職員が配置され、利用者間のトラブルの和解や、服薬管理など、施設利用者への細やかな対応を可能としており、個人情報の管理に配慮したうえで職員間の情報共有も図られている。また、経理を担当する職員を配置し、適切な経理書類が作成されている。 事故や災害に備えた研修を行っているほか、三居沢地区防災会議に参加し、近隣施設や関係機関と災害時の協力体制を構築するなど、緊急時の体制がとられている。	S
III	施設・設備の維持管理	建物・設備の保全や備品管理については、委託仕様書に沿った適切な管理・取り扱いがなされているものの、建物、備品ともに年数が経過しているため、各所に不具合が生じている。 施設内の清掃は定期的に行われており、利用者が衛生的かつ快適に利用できる状態であった。 グリーン購入に関しては、前年度と同様、予算範囲内で積極的に取り組んでいる。	A
IV	サービスの質の向上	利用者が少しでも早く地域に移行できるよう、関係機関と協力した退院促進支援や宿泊訓練に取り組んでいる。また、施設職員の資質向上や意識啓発のため、外部研修会に職員を参加させるなどの取り組みも行っている。 ホームページでの情報提供や施設のパンフレット作成など、適切な利用情報の提供に努め、見学体験利用も積極的に受け入れている。	S
V	施設固有の基準	生活訓練プログラムの月間予定表を作成して、計画的に実施した。生活技術の習得、地域活動への参加と交流、健康増進、生活圏の拡大等の目的のもとに、調理実習、清掃活動、高齢者施設でのボランティア等を実施し、利用者の生活技術の向上に努めた。 必要に応じて、利用者家族及び相談支援事業所や医療機関等の各種関係機関との適切な連絡体制の確保も図っている。	S

### 三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1		
2		
3		
加点評価		—

### 四 評価総括

《指定管理者（社会福祉法人 緑仙会）による自己評価》
<p>中期経営計画の利用率の向上については、短期入所の達成率は9割未満であったが、自立訓練(生活訓練)・宿泊型自立訓練は、概ね目標数を達成するような状況だった。</p> <p>①精神科病院長期入院患者の退院促進 中期経営計画に基づき、入院中の精神障害者に対する新規利用の促進を目的に、入所に向けた体験利用を8名について延べ109日実施した。5年以上の長期入院や入退院を繰り返している障害者に対して、医療機関と連携して体験利用を実施し、施設に慣れてもらいながら生活訓練に対する意欲を高め、6名が新規利用に繋がった。</p> <p>②利用者の特性に合わせた個別支援の実施 規則正しい生活が身につくよう、就寝、起床、食事、入浴等の声掛けや見守りの支援を行なった。新規利用者については、医療機関や家族と連携し、利用前の生活状況を確認し、本人の体力に合わせ、状態を安定させながら徐々に体力向上を目指せるよう支援した。季節に合った服装、毎日の洗顔、歯磨き、髭剃り等の指導が必要な利用者に対して、本人の状況に応じて見守り、指導を行なった。また、各自がゴミの分別とゴミ出しが適切にできるよう指導を行なった。利用者全員の居室を月に1回点検し、必要に応じて助言、指導を行なった。</p> <p>③地域生活への移行支援 中期経営計画に基づき、地域生活への移行のため利用者の希望に沿って、アパートでの単身生活、グループホーム、救護施設等、物件探しや見学、受入先との情報共有、申請手続き等の支援を行なった。必要に応じて体験利用の調整や送迎の支援も行った。結果、3名の利用者が希望していたアパートへの単身生活へ移行した。グループホームに移行した3名の内1名は、本人の希望通り1年以内での地域移行を実現した。本人、家族や関係機関と連携し、退所後の生活に必要な日中活動の場の確保や、在宅サービスの導入についても支援を行なった。アフターケアとして、退所した利用者に対して、生活の見守りと関係機関への引継ぎのため、訪問支援を実施した。</p> <p>④その他 ・短期入所については、本人、家族の休息や、緊急時の対応等を目的に、延べ554人のショートステイ利用があった。 ・広報活動については、ウインディ広瀬川だよりを発行し、ブログなどを利用し、関係機関や行政、病院等へ、行事やプログラム内容等の紹介を行なった。 ・青葉区障害者自立支援協議会「サポネットあおば」の相談支援事業所連絡会と、実務者ネットワーク会議サポネットあおばの集いへ計7回参加した。 ・公益的取組みとして、周辺地域の単身生活者に対する訪問支援を13件実施した。又、町内会との話し合いによる地域ニーズの把握については、ほっとすぺーすと合同で10月に実施した。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>平成29年度の管理運営については、協定書及び仕様書に従って適切・良好に行われていた。</p> <p>特に、長期入院や自宅で引きこもりの生活をしている障害者の利用を促進するため、利用手続きの段階から医療機関、区保健福祉センター、障害者相談支援事業所等の関係機関と連携するなど、本市が重点的に取り組んでいる地域生活移行へ向けた努力が認められる。</p> <p>全体としては、研修の実施による職員の人材育成の取組みを積極的に行うことなどにより、自立訓練(生活訓練)・宿泊型自立訓練事業所として良好なサービスの提供に繋がっているため、総合的に高く評価できる。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局障害福祉部障害者支援課